校友時報

昭和45年7月11日
編集人兼発行所
秋田県能代市追分町4番26号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所 大勝堂印刷所

新校長所感を語る

私の人生観

今春、能代北高校から転任された和田勝太郎校長は、時間割の改定、全校集会の発足等幅広い活動を精力的に行なっている。また先生は剣道の達人であるということはお聞き及びだろうが、放課後剣道部へ指導しに行く先生の武道着姿をみた人はあまりいないだろう。先生は国語を専攻しておられたそうで、あるクラスの国語の自習時間に進んで授業しに行ったそうである。そのクラスの人の話を聞くと、非常におもしろかったそうで、特に和歌を詠んだときの節まわしは絶妙だったそうである。

先生と先徒の間でさえ断絶しているといわれる昨今、私たち生徒は校長先生の考えを知らなければならないし、十分に話し合わなければいけないと思う。そういった意味で校長先生に所感をのべてもらった。

「人がこの世に生きている限りやはり何かの思想を持ちたい。それも、できるだけ大きくとねがうのは、当然であろうけれども、最善を目指しても、一挙になれるものではないであろうから、最善ではないが、次善をとねがうのもこれまた当然であろう。

しかし、いかに高大な理想に燃えておっても、人間の一日の持ち時間は、例外なく二十四時間であり、そして例外なく、五十年か百年すれば、死んでしまうのに対して、人間のしてみたいと希うことは無限にある。

俳優の仲代達矢が言うように『切り捨てのすすめ』には、私は同感である。

短かい人生で、その切り捨てた分だけ、他の何かをすることができるからである。

そして、種々雑多に起るであろう欲心を切り捨てて、一つか二つかに集中して、それにまっしぐらに進むことにしたいものである。

その間に、悩むこともあろうし、不安感におののくこともあろうがこれらのことが、全くないという人がもしあったとすれば、それは神に近い人であるか、精神的に何か欠ける面をもつ人であるかのどちらかであって、その不安を克服するという戦いにいどむ、それに生き甲斐を持つということが、人間らしい美しさではなかろうか。

そのように、人生はまたばら色ばかりではない。日常の対話の中にも行動の中にも、ときには心の臓が止まりそうになって、身のおきどころがなくなるようなことだって、しばしばある。

その時になって、事に処してあやまりの無いことをねがうのも、これまた人間の自然の祈りであろう。

ところで、平凡な人生を平凡にやっておって、手なれたものになってしまうと、大体顔かたちまでが、平凡になるようだ。だから、『常に猛烈なシロウトとしてことにぶち当れ、さもないと飛躍がないぞ』と戒めた、先輩の言をよく噛みしめてみたいものである。

所謂、風格のある顔といわれるようになるまでには、苦労を経て成長したものでなければならぬということも、よく理解できるような気がする。

ところでその風格ある顔にはなれなくとも、四十才には四十才の顔、五十才には五十才の顔があるそうだから、その顔に責任の持てるような、行為なり仕事なりをしたいものである。だが、ことさらに『目だつための化粧』だけはしたくないものと思う。

部説

高校生活に思う

先ごろ、東京都の高校のうち数校で行なわれたアンケートの結果で「学校に今一番望む事は?」と言う質問に対する回答の多くが、生徒同士の深い交流、話し合いを望み、わずかの者が先生との信頼を望んでいる。という事を聞いて、私はふと以前ある新聞の声の欄に「高校の予備校化反対!!」という意見を述べていたが、その中でも生徒同士の話し合いということが強調されていたことを思い出した。我々高校生と言わず同世代の者たちが友を求めるという強い現象については多くの者が気づいていた事ではあるが、それがこのようにアンケートの結果という形で改めて公表された事について我々も深く考えさせられる所があった。今日の高校、いや大学進学を前提として普通高校における現状は、全般に生徒会運営は停滞し、また生徒の生活は登校、授業、下校の繰返しであり、生徒同士話し合う時間は実に少ない。また極端な例を挙げると、同学年と言わず同クラスの者の名前すら知ること無く卒業して行く者がいる。このような中で真の友達を見付けることが可能であろうか。

こういう現象の中に、先の五月に中間報告された「初等中等教育改革に関する基本講想試案」の中で〃多様なコースの適切な選択に対する指導の徹底、教育は段階ごとに適切なコースを本人が選択できるような指導をする……。他人との競争だけに追われることなく、着実に自分の進むべき道を発見させることが教育の任務である。〃と述べられている。だが今日を競争なくと考えることはできない。我々が今目指している大学入試そのもの自体が競争である。そして、今日の我々は将来を深く考える事よりも、まず大学進学の方が先行してしまい、それが唯一の目的であるかのように思込んでいる傾向がある。こういう現状から考えると前にあげた中間報告試案も、あまり魅力のあるものとは思われない。

このように我々は進学を前提とするあまり、友と呼べる友を知る事無く、自分の主張、思考を虐げられ、結局自分自身を抑え付けている。しかし、だからと言ってこのような現象のすべてを悪いとは言えない。それはやむをえない現象であるとも言える。だが Ifを考えられるなら、多くの高校生が、高校時代をもっと明るい希望のみなぎるものにしたいと考えているのではないだろうか。早くそういう時代が来てほしいものである。

3・E 佐藤豊秀

学生のみせ
キムラヤ
はたまち 2－5535

時評

197X年

国語科 **藤田昭夫**

一九七〇年を迎えて、日本もほんとうにさわがしくなった。世界などと風呂敷を拡げなくても、ハイジャック、シージャックなど私の過去の記憶にはない新しい形の社会現象が次々と起きているし、物価の急上昇を始め、都市周辺の住民にとっては生命の危険をはらんだ公害という大問題もある。公害などはよその人達の問題だぐらいに軽く考え、公の字につい惑わされて、公共の福祉の為に起ってきているやむをえない害をいうのだと錯覚をしていたが、よく心をこめて考えてみたら、どうやら公の字は「工」と「鉱」の字の使い誤りであることに気づくことができた。食料品の添加物や排気ガス、それに米代川の水にもカドミウムや銅イオンが入っているとなると、その味もなんとなくほろ苦い味に変り、心が落ち着かなくなってくる。ところで、先頃行なわれた全県高校総体に参加してみたが、今年はなんなく雑然とわやわやと人間がうごめいているという感じで、若人の血のたぎりや情熱のほとばしりへの出合いを期待していた私はほんとうに物足りないむなしさを感じてしまった。あるいは、自分に関係のあるチームが優勝をかけて大熱戦を展開している場面にでも出くわせば、往年の若い血も燃えたかもしれないのだが、タイミングが悪かったか、それとの出合いがなかったのがこんな感じを抱かせたものと思う。それにしても負けると判っていても なお 気を 振いおこして、難敵にぶつかっていくという真剣な姿がたまたまみられなかったということは、困難を避けて安きにつき、あきらめの早い、結果のみを気にする惰弱な人間の姿が現代の青年の中にもみられるような気がして、嫌な悪感のようなもの、現代日本の縮図のようなものを感じさせられてしまった。

ともあれ、七〇年は半分過ぎてしまった。しかし、これからは台風も来る。地震も多いという。物価は天井知らずの気配をみせている。未解決の社会問題も山積しているし、新しい問題も次々におこってくるに違いない。そんな時だから、他力本願ではなく、もっと行く先をみつめて、心をこらして生きる態度を現代の青年に欲しいものだと思っているのはひとり私だけではないはずである。

生徒会費月額三十円値上げ!

ここ数年生徒会費の値上げをしていなかったが、今年もまた値上げをしないとなると、文化祭か卒業文集「巨濤」のいづれかを中止しなければならないという現状にあり、また生徒数の減少と諸物価の高騰により値上げの必要性が増し、月額三十円の値上案を生徒総会に提出し、可決され、昨年を上回る二百九十万円台の予算額になった。

45年度生徒会予算

項目	本年度	昨年度
前年度繰越金	52,723	146,745
会費	2,787,600	2,532,000
入会費	66,800	67,400
PTA補助等	300	300
合計	2,907,423	2,746,445
品目	本年度予算	昨年度予算
総務局	1,329,080	1,204,320
企画部	520,000	400,000
需要費等	809,080	804,320
文化局	483,775	474,585
弁論部	1,000	9,000
文芸部	29,150	44,900
科学部	20,340	20,080
音楽部	15,050	15,500
書道部	19,000	15,200
絵画部	30,050	32,140
新聞部	155,070	121,900
演劇部	45,480	42,130
ブラスバンド部	94,000	119,000
写真部	16,635	13,735
無線部	58,000	41,000
体育局	1,005,140	963,325
硬式野球部	270,410	276,290
軟式野球部	66,010	66,320
庭球部	77,240	77,800
籠球部	55,920	56,600
排球部	93,800	85,800
卓球部	57,700	56,280
体操部	52,290	50,500
陸上部	72,610	79,785
柔道部	54,600	58,500
剣道部	135,240	95,820
スキー部	57,000	50,000
YHC部	10,320	9.630
応援団	46,300	43,800
予備費	43,128	70.645
合計	2,907,423	2,746.445

論点

▼人をうらやましがる気持は誰でも持っているものである。また人には負けまいという気持も誰しもが持ちあわせている。

▼「隣りのバラは赤い」ということわざがある。人のよいところはやたらと目につくものである。しかし、それをうらやましがっていてもこちらのバラが赤くなるわけでもあるまい。人のバラが赤く見えたら、こちらでもバラを赤くしようとする努力がなければならないのである。人にまけまいとする気がどのぐらい強く、またどのぐらい努力するかが、こちらのバラが赤くなるかならないかのカギなのではないか。

▼いきなり例だけを出してしまったが、総体の結果についてのことである。確かに総体の結果はおせじにも良いとはいえなかった。体育局には申し訳ないが、三位までの入賞が一つもないなどということは、今までのうちで最低ではなかったかと思われる。▼それだけならまだしも、「ああ、鳳鳴はいいなあ」とか、「能工は いいなあ」とか、「さすが秋高はできがちがうなあ、能代高校は全然ダメだ」などということばが運動部の者から聞かれるとは、なんと嘆かわしいことであろうか。▼結果だけを見て批判するのは誰にでもできることなのだが、問題はその結果をいかに活用するか、ではないだろうか。人を(他校を)うらやましがるのもよかろう。しかし、そこには進歩ということがまるでないのだ。進歩という言葉ができるには、反省と、そして努力が必要なのではないか。素質の差ではなく努力の差なのだから。▼それと能高生たるプライドである。いかに秋田が、鳳鳴がいいといっても能代高校は一つだけなのである。うらやましがるよりは俺は能代高校の生徒だ!という気がまえがほしい。▼良薬は口に苦しということわざもある。今回の成績がほんとうに苦い薬となることを期待する。

部員募集!!

部員を募集する。経験の有無に拘わらず活発で活動力旺盛、且つ精力が横溢しているもの特に一年生諸子にお願いする。希望者は、直接部室までくるか、或いは部員に申し伝えるかしてもらいたい。

新聞部

学生替ズボン

V型 29

※テイジンテトロン ¥2,000—¥1,800
※東レテトロンウール ¥2,600—¥2,300
※純毛カシミヤ ¥3,000—¥2,700
※ニッケ純毛カシミヤドスキン ¥3,300—3,000
※ウエスト66〜90㎝ 裾巾22〜35㎝

良い品を安く つかもと洋品店 みつまる2階中央

メガネ・ペン
カモヤ 畠町 T 2—3740